



泉の子

令和8年6月23日

泉小学校

学校便り 第2号



「人とあたたかくかかわる子」 ～みんなが安心して笑顔で過ごせる学校へ～

校長 尾上 清

新年度が始まって、もうすぐ3か月が経とうとしています。子供たちは新しい学年や学級の生活にすっかり慣れ、毎日素敵な笑顔を見せてくれています。

本校では、年間を通じて「あたたかな学校・学級風土づくり」に全員で取り組んでいます。互いのつながりを感じ、居心地がよく安心できる学級を子供たち自身の手でつくっていくことは、学校生活の土台となる大切な一歩です。これからも、子供たち一人一人の存在も個性も大事にしながら、よりよい人間関係づくりができるよう、日々の活動を重ねてまいります。

【学校教育目標】

一人一人が輝く あたたかな学校

【重点方針】

あたたかな学校・学級風土づくり

【命について考える日の取り組み】

本校では、浜松市が定める6月12日の「命について考える日」に合わせて、全校で命の大切さについて見つめ直す時間を設けました。



本年度は、6月10日を泉小の「命について考える日」とし、当日の朝会では、校長から全校児童に向けて「命」についての話をしました。かつて浜松市内で起きた、自ら命を絶った中学生の悲しい出来事や、病気と闘いながら「学校でみんなと過ごしたい」と願いつつこの世を去った教え子のエピソードを伝え、「どの子ども、一人一人かけがえのない大切な命であること」「あなたのことを大切に思う人が必ずそばにいること」などを話しました。

また、何気ない言葉が相手を深く傷つける刃物にもなれば、相手を思いやるあたたかい言葉や優しい行動が誰かの心を救う光にもなるという、言葉のもつ大きな力についても語り掛けました。

校長の話を受け、各学級では道徳科の学習や学級活動などを通して、一人一人が「命」について深く考えました。授業を終えた子供たちの振り返りからは、「自分の命だけでなく、周りの人の命も同じように大切にしたい」「普段使っている言葉を振り返り、相手が嬉しくなるようなあたたかい言葉を使っていきたい」といった声が聞かれ、自分自身を見つめ直す大変貴重な時間となりました。



【あたたかな学校づくりへ：代表委員会の話し合い】

「あたたかな学校・学級風土づくり」をさらに一歩進めるため、先日の代表委員会では、学校全体としてどのように取り組んでいくのかについて話し合いが行われました。

代表委員会には各クラスの代表児童や各委員会の委員長が集まり、「みんなが安心して楽しく過ごせる泉小学校にするために、自分たちにできることは何か」を真剣に議論しました。話し合いの結果、学校全体として「助け合う仲間になるために必要な3つの取り組み」を考え、実践していくことが決まりました。



- ① 相手を思いやり、助けるような行動を一人一人が実践する。
- ② 優しい言葉掛けをする。
- ③ 助け合えるような関係性をつくる。



今後、さらに話し合いを進め、運営委員会が中心となり、決まった取り組みに全校児童が一丸となってチャレンジしていきます。子供たち自身が主体となって創り出す「あたたかな学校づくり」を、職員一同、精一杯支援してまいります。保護者・地域の皆様におかれましても、子供たちの取り組みをあたたかく見守り、応援していただけますよう、御理解と御協力をよろしくお願いします。